

林野庁プレスリリース(4月)

- 「5月4日はみどりの日」キャンペーンの開催(4/1)
- 農林水産公共事業コスト構造改善(4/2)
- 林政審議会施策部会の概要(4/7)
- 気候変動に関する国際枠組みに係る特別作業部会の結果(4/7)
- 林政審議会の開催及び一般傍聴(4/8)
- 国有林野事業における技術開発の重点的取組(4/10)
- 第3回山村再生に関する研究会の開催及び一般傍聴(4/16)
- 第2回山村再生に関する研究会の概要(4/16)
- 森林農地整備センター(旧緑資源機構)の入札監視のための委員会(4/16)
- 第2回「みどりの式典」の開催と平成20年緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰の受賞者の決定(4/18)
- 第19回森と花の祭典-「みどりの感謝祭」の実施(4/21)
- 林政審議会の概要(4/21)
- 国際熱帯木材機関「気候変動と熱帯林の持続可能な経営に関する国際専門家会議」の開催(4/22)
- 第2回「間伐材チップの紙製品への利用促進に係る意見交換会」の開催(4/25)
- 『美しい森林づくり』に向けて-平成20年度国有林野事業主要取組事項-(4/25)

林野庁 一口メモ

造林 ～地拵え・植付～

森林整備の作業のひとつとして植付作業があり、伐採を行った跡地や新たに森林整備の必要となった箇所において苗木の植付を行います。春植えの場合、南北に長い我が国では、早いところでは3月くらいから北国では5月にかけて植付を行います。

植付を行う場所ではあらかじめ、育成しようとする樹木の植栽や種子の定着、成長等を容易にするため、その妨げとなる雑草や伐採木の枝などの除去、整理を行います。これを「地ごしらえ」と言います。

地ごしらえを終えると、苗木を丁寧に植えていきます。植付方式は方形植えが多く、平地などで本数が多く入る正三角形植え、寒風害や雪害が予想される地域等においては数本を寄せ植えする巣植えなどもあります。現在でも、植付作業のほとんどが手作業で行われており、林道の端から植付ける場所までは、数十キログラムにもなる苗木を背負い、運んでいくこともあります。

植付だけで、山の作業が終わりではありません。植付けをした樹木を成長させるために「下刈」「つる切」「除伐」「枝打ち」「間伐」といった作業を十数年に亘り、引き続き行っていきます。



編集 後記

小学校を卒業以来、行くことのなかった公園に行ってみると、当時とは違う景色に気づきました。その一つが、公園を取り巻くように植えられている木々。以前はスギだったかマツだったか、針葉樹が等間隔で植えられていたのが、一〇年近く前に広葉樹に植え替えられたそうです。針葉樹が整然と並ぶ様子もいですが、広葉樹が枝葉を広く伸ばす様子もなかなか趣きがあるな、と改めて思いました。

この時期、生き活きとした葉を広げる広葉樹。見ているだけで不思議と癒されるので、たまには近くの公園に出掛けてみようと思えました。

林野 RINYA 5月号 No.14

平成20年5月15日発行

発行●林野庁

〒100-8952 東京都千代田区霞ヶ関1-2-1

電話 03-3502-8111(代) FAX 03-3591-6505

編集●camp damian

東京都足立区千住東2-21-25-413

印刷●松尾印刷株式会社

東京都港区虎ノ門5-8-12

<http://www.rinya.maff.go.jp/>